

- ・漁業の就労環境と漁港区の施設の現状を改善したい
- ・苫小牧の水産業について一般消費者に認知してほしい

- ・漁業の就労と漁港区の施設を体験し、漁業者と参加者(北大工学部の学生)との意見交換により、漁業や漁港整備の課題について学生が認識するとともに漁業者は幅広い意見を聞くことができた
- ・新聞報道を通して一般消費者にも課題を伝えることができた



スケトウダラを網からはずす作業。慣れるまで大変でした。特に、冷えたときは魚が凍るので、はずしにくくなる。

午前3時から4時の意見交換会

女性部の作った朝食
ホッキカレー、サラダ、スケトウダラの三平 ↓



ここがポイント！

- ① 北海道大学工学部環境社会工学科の学生が体験漁業に興味を持ったことと、漁業者が苫小牧の水産業について一般消費者に認知してほしいと思いを、NPOが協力して体験漁業という形で実現した
- ② 今回の体験では、日頃まず見ることのない漁業の作業環境、重労働を体験するとともに、地域漁業の現状について説明を受けたあと、学生の質問と漁協の応答のなかで多様な課題を認識し、学生にとっては現場を知ることの重要性を実感した。また女性部の作った朝食で地元食材を味わった
- ③ 漁協は日頃交流することのない人からの意見を聞くとともに、一般消費者にも課題を伝えることができた